



平成26年度 中央区地域活性化事業交付金 交付決定事業 【横山地区】

平成27年3月31日現在

団体名	事業等の名称	事業の概要			交付決定年月日	事業予算(単位:円)		
		事業の背景	事業の目的	事業の内容		全体額	申請額	交付金額
1 男性ボランティア横山ゼロツウ/テン	「くつろぎ亭 横山」の運営事業	平成24年9月に開設し、本年度で3年目を迎える高齢者の立ち寄り処「くつろぎ亭 横山」事業は、高齢者の憩いの場として、介護予防、ひきこもり防止に役立っているほか、孤独死等を防ぐための高齢者相互の見守り合いの輪を広げる事に大きく貢献し、地域に不可欠なコミュニティの場となっている。	高齢者が多数参集する「くつろぎ亭 横山」を拠点として、リピーターを中心に地域に見守りの点づくりを行う。リピーターによるチラシ配布等により、さらなる新規の会員の開拓を行うことで点から線、さらに面として高齢者相互見守り体制のネットワークづくりを目指す。	毎週木曜日に開催している高齢者の憩いの場として「くつろぎ亭 横山」の開催。 「くつろぎ亭 横山」における「健康教室」「相模原今昔物語」「脳トレーニング」「折り紙教室」などの高齢者向け教室の開催。 本年度新たに「くつろぎ亭 横山」において「財産詐欺防止」、「成年後見制度」の勉強会を社会福祉協議会と連携して開催する。	9月18日	346,000	196,000	196,000
2 横山地区安全・安心事業推進委員会	安全・安心よこやま	中央区全体にいえることだが、ここ横山地区内においても自転車に関連する交通事故の件数が多い。防犯や防災についても、社会的に話題となっており継続的な啓発活動が必要である。 そのため今後もチラシ配布や、安全安心の日における横断幕、のぼり旗の掲揚等による防犯、交通事故防止及び防災の啓発活動を行う必要があると思われる。 また3年目となる今年度は、上記の自転車事故の件数状況を鑑みて、更なる事故防止の啓発を図るためスクエアドストレイトを横山小学校で行い安全で安心した生活が送れる環境を作ることに貢献する予定である。	横山地区において、住民主体で災害の対応や日常生活上でふりかかる犯罪、交通事故防止の取り組みを進め、PR及び啓発活動を実施することにより、防災、防犯と交通安全に対する意識の醸成を図るとともに、安全で安心して生活できる地域づくりに貢献する。	横山地区”安全・安心の日” ・6月、9月、12月、3月の安全・安心の日からのぼり旗を1週間掲出し啓発強化を図る。 イベント ・12月7日(日)横山小学校においてスクエアドストレイトの実施 ・3月7日(土)横山公民館まつりにおける安全・安心よこやまの啓発ブースの出店 防災用品の展示・PR等 防災・防犯・交通安全の啓発物品等の作成と配布など ・回覧板用ケースの作成と配布。 ・啓発用横断幕・のぼり旗の増作(防災、防犯、交通安全で各1種類) ・啓発チラシの増刷(防災、防犯、交通安全で各1種類) ・公民館まつりで、災害時の非常食試食と防災、防犯、交通安全に係る啓発グッズの配布 青パトによるパトロールの実施 ・月に4~6回程度のパトロールの実施(年末夜間実施を含む。)	9月22日	1,680,000	1,680,000	1,680,000
3 とっさの時の安心づくり事業推進委員会	とっさの時の安心づくり事業	一人暮らしの高齢者が急病の時、親が働いている時間に子供が怪我をした時、親が倒れて子供が幼い時などにおいて救急車を呼んだ場合に、かかりつけ医や親族等の連絡先が分からず救急隊員が対応に苦慮したり処置が遅れたなどのケースが存在していた。そこで、かかりつけ医や緊急時の親族等の連絡先を記入する緊急時連絡表、その用紙を冷蔵庫に保管するためのケース(安心ケース)、または外出時に携帯するカード(安心カード)を作成し各戸に配布することとした。その緊急時連絡表を、救急隊員が見ることにより迅速な処置や対応の手助けに繋がった。	・一人暮らしの高齢者が急病の時、親が働いている時間に子供が怪我をした時、親が倒れて子供が幼い時などにおいて救急車を呼んだ場合に、かかりつけ医や親族等の連絡先が記入された用紙を救急隊員が見ることで迅速な対応、処置へと繋げる。そのための緊急時連絡表を新規転入者、新規自治会加入者等に配布するほか、既配布者にも更新用の用紙を配布し、最新の情報を緊急時連絡表に記入し、備えておくことで、地域住民の誰もが安心して日常生活を送ることのできる地域づくりを目指す。 ・開発による新規分譲住宅の入居者を対象とした自治会の説明会開催時に当事業の趣旨、配布物品等の説明もすることで自治会加入進に繋がることを目指す。また単独の新規転入者の場合、自治会班長等が自治会加入の説明のために訪問をする際にも、当事業の説明をすることで、自治会に加入するきっかけとして役立っている。	・転入者等への緊急時連絡表(新規)、安心ケース、安心カードの作成及び配布。 ・既配布者への年度更新用の緊急時連絡表、安心カードの作成及び配布。 ・緊急時連絡表、安心カードの利用と常備への理解をしてもらう活用徹底チラシの作成、配布。並びに自治会掲示板用ポスターの作成。	11月20日	368,000	368,000	368,000

団体名	事業等の名称	事業の概要			交付決定 年月日	事業予算(単位:円)		
		事業の背景	事業の目的	事業の内容		全体額	申請額	交付金額
4 ボランティア絆	高齢者ふれあいきいきサロン見守りボランティア事業	<p>・横山地区では、高齢者等を対象とした、ふれあいきいきサロンが13あるが、車椅子等の歩行困難の理由によりサロンまで行くことができない高齢者の方が存在している。ふれあいきいきサロンまでの引率、送迎等を行うことで参加したい高齢者等の手助けができないかとのことで当事業の発足となった。</p> <p>・東日本大震災時に高齢者のサロン等の開催中に被災した事例もあり、サロン開催中の災害時の対応等が必要であると考え、サロン開催時、開催場所での避難訓練を実施することに至った。</p>	<p>・横山地区に居住する高齢者等が、ふれあいきいきサロンに参加したくても歩行困難等の理由で参加できない方をサロンまで引率、送迎をすることにより、高齢者の見守りの点づくりに貢献する。</p> <p>・サロン開催時にその開催場所で避難訓練を行うことで、実際の災害発生時における迅速な誘導及び救助へ繋げることを目的とする。</p> <p>・災害時には絆の委員(民生委員等)と避難支援ボランティアが独り住まいの高齢者、高齢者夫婦世帯、障害者等の安否確認や避難支援を行うことを目的とする。</p>	<p>・高齢者等が、ふれあいきいきサロンに参加したくても歩行困難等の理由で参加できない方をサロンまで引率、送迎を行う。(横山地区13サロンのうち3サロンを対象)</p> <p>・サロン開催時において災害が発生した場合にも、冷静に迅速に避難するための避難訓練をサロン毎(13サロンのうち1サロンは活動休止中のため12サロンを対象)に実施し、訓練参加者に避難マニュアルをクリアケースに入れて配布する。</p> <p>・横山地区と絆メンバーをAからFの6グループに分け、それぞれのグループのリーダー(民生委員)とグループのメンバー、避難支援ボランティアは、災害発生時に担当エリアの独り住まいの高齢者、高齢者夫婦世帯、障害者等の安否確認や避難支援を行うので、そのための避難誘導の講習会等を開催する。</p> <p>・新規避難支援ボランティア(青年部)25名用の災害用支援グッズ(ラジオ付き手動ライト、ヘルメット等)の購入。</p>	11月20日	494,000	488,000	488,000
5 横山地区自治会連合会	横山地区まちづくり広報発行事業	<p>・横山地区自治会連合会では、地区における防災、防犯、交通、生活環境やおまつりなどの活動、事業に取り組んでいる。一方で、未だに地区における活動が地区住民に広く浸透していき、活動や事業への参加が十分な状況ではないと思われる。</p> <p>・横山地区における活動をより発展、充実させていくためには、広く地域住民に地区で行なわれている活動や地区のまちづくりにおける課題などを知らせていく必要がある。</p> <p>・まちづくり会議においても、まちづくり会議が開催される限り、会議の結果内容を紙面で発信し続ける必要があるとの意見が出された。</p>	<p>横山地区自治会連合会や地区の各団体の活動に関する情報、その他まちづくりに関する情報などを広く広報することで、地域住民の方に地区の活動を周知し、活動やまちづくりに関心、興味を持ってもらう。その結果として、これまでは参加機会の少なかった人たちが地区における活動へ参加するようになり、そのことにより地域の活性化と、まちづくりの発展へと繋げることを目的とする。</p>	<p>【横山地区まちづくり広報の発行】</p> <p>・規格:A4版 4ページ</p> <p>・発行:1回(各4,500部)</p> <p>・内容:まちづくり会議に関する情報、各種イベントの実施報告、各単位自治会に関する情報、地域活動団体に関する情報、防犯、防災、交通や生活環境に関する情報、住民の地域活動への参加促進につながる情報等</p> <p>・実施体制:横山地区自治会連合会内に編集委員会を設置。</p>	11月20日	163,000	163,000	163,000
						3,051,000	2,895,000	2,895,000